

Ⅱ 職業適性診断システム キャリア・インサイト (In★Sites 2000)

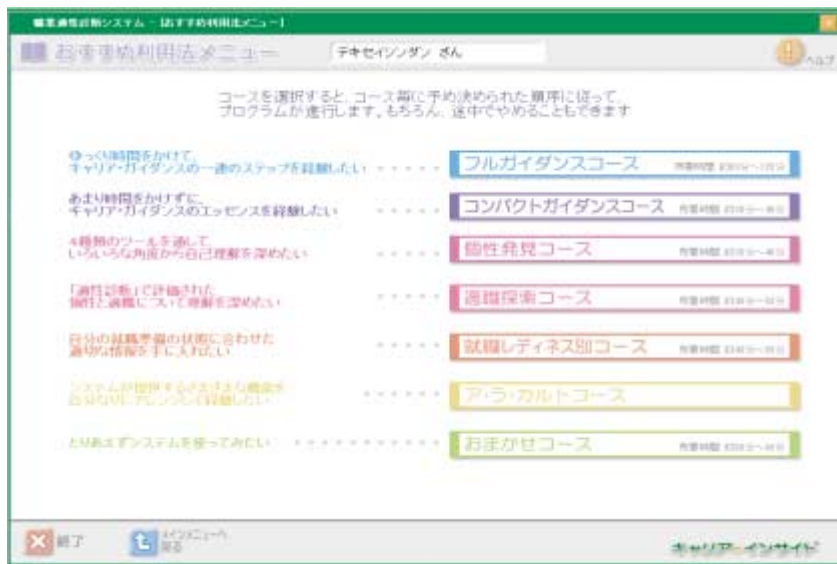
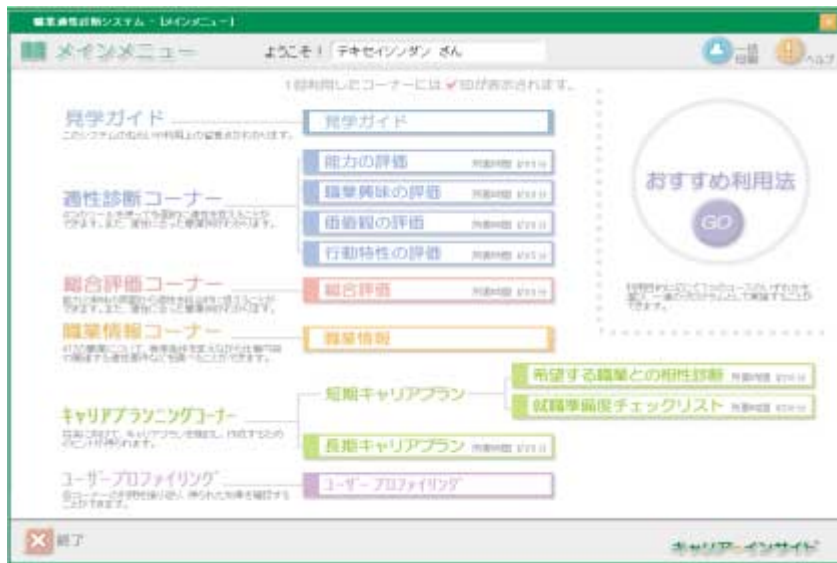
雇用・能力開発機構東京センター

住宅リフォーム会社で正社員として働いてきた二〇代前半の鈴木一郎さん(仮)。三年間がんばったが、内装工としての技術に自信が持てず、他の業種に転職を探索すると退職した。同じ内装工の仕事なら他社から声もかかっていったが断って、初めてハローワークを訪ねた。ところが、ほかに特別な能力も

経験もないし、どんな職業が向いているのかわからない。たまたま手にした職業適性診断システムのちらしに導かれ、雇用・能力開発機構東京センター(東京・飯田橋)に向かった。同センターでは、パソコンによる職業適性診断システム「キャリア・インサイト」(商品名 In★Sites 2000)を設置、来訪者は自由に利用できる。パソコンに抵抗感が少ないこともあり、



東京センター相談専門役の生島晃子さん



センターを訪れるほとんどの若者が、まずこのシステムを利用する。センターには専門のカウンセラーが常駐。診断結果を手がかりに、本人の悩みを引き出しながら、適職探しが開始される。職業選択を手助けする「キャリア・インサイト」のターゲットは、大学在学中から三〇代前半までの若者。利用者は、パソコン画面上に表示される質問に、回答のボタンをクリックしながら進む。すべての質問に回答し、採点ボタンをクリックすると、適性や能力などの評価が即、表示される。

システムは四つのコーナーからなる。まず、適性診断コーナー。能力・興味・価値観・行動特性を質問し、それぞれの評価から、職業適性が分析される。たとえば能力については、五四種類に及ぶ活動や作業についての程度自信をもっているかを聞く。採点の結果、八つの能力タイプから本人に当てはまるものが示され、その能力に合致する職業リストを見ることが出来る。二つめは、総合評価コーナーで、能力と興味から適性を総合的に診断。あわせて適職をリストアップしてくれる。三つめのコーナーは、職業に関する情報。四一七もの職業について分野・能力・

興味・資格などさまざまな側面から検査できる。最後はキャリアプランニングコーナーで、目先のプランだけでなく、キャリアパスや家庭のライフイベントを考慮しながら長期プランが設計できる仕組みだ。

動き出すきっかけづくり

鈴木さんは高校を卒業してから内装工の仕事に就くまで、アルバイトを転々としてきた。相談にあたったカウンセラーは、診断結果をみて、質問を投げかけた。

「いちばん良かった仕事はなんですか」

「ガソリンスタンド」

「どういうところが良かったのですか」

「ガソリン以外のサービスをお客に勧めて、売上げが上がるところ」

鈴木さんは、「あのときの自分がいちばん生き生きしていたなあ」と思い返し、「自分は接客が好きなんだ」ということに気がついた。

相談の中で現在のリフォーム会社の仕事も、ガソリンスタンド勤務当時の客からの紹介だということがわかった。「仕事を紹介されたということはお客さんの信頼を得たということだから自信をもつていい。これから人との出会いや人脈は大切」と相談員が諭すと、「そういうのを人脈っていうんですか」と驚いた様子。意外な発見に、相談に臨む表情と姿勢が次第に変わっていった。

これは、実際に同センターで相談専門役を務める生島晃子さんが扱ったケース。相談者の多くは、自分には能力

がないと思い込んでいる。とくに若い人は、「フリーターには未来がない」と言われ、不安と焦りを感じていることが多い。

「アルバイト経験しなくても、そこで必ずなにかを身につけてきたはず」

(生島さん)。ガイダンスでは、まず過去を振り返り、めざす仕事の方向を探る。経歴と希望の間にあるギャップはなにか。そのギャップを埋めるためにいまなにができるのか。相談者と一緒に考えを整理していくプロセスのなかで、インサイトによる適性評価は過去をひもとく大きな手がかりとなる。同時に、どんな結果が出て自分をもつめる機会にすれば「本人が動きはじめるきっかけになる」と生島さんは強調する。

「キャリア・インサイト」は七月、改訂版の販売を開始。新バージョンでは利用目的に応じてプログラムを選択できる「おすすめコース」が新たに装備された。時間をかけたい人、エッセンスだけを経験したい人、就職準備状況にあわせて情報を入手したい人などのために七つのコースが用意されている。画面レイアウトや印刷機能の改良なども加えて使い勝手を高めた。

開発を担当した当機構の室山晴美主任研究員は、「インサイトは利用者自身に将来の方向を考えるきっかけや素材を与えるシステム。同時に、カウンセラーの相談に役立つ情報を提供することも可能」として、カウンセリングでの活用は効果的と話す。

(詳しい情報は<http://www.jli.go.jp/institute/seika/sites2000/osusume.htm>)

(調査部 高畑いづみ)

III OHBY 中高生向けの職業ハンドブックPC版 東京都立世田谷泉高校

「ほかの班が見つけにくそうな職業を探して、班でひとつ挙げてみてくたさい」

六月七日夕、東京都立世田谷泉高校(生徒数六〇〇人)夜間の部で、職業ガイダンスシステム「OHBY」(Occupation Handbook for Youthの略)を使った進路学習授業が始まった。カーペ

ットが敷かれたL教室。三方の壁に向かってぐるりと並べられたパソコンの前に、一年次の生徒二五人が座る。進路ガイダンスのためのツール「OHBY」は、パソコン版の『職業ハンドブック』(労働政策研究・研修機構発行)で、四三〇もの職業に関する職務情報を、中高生向けにわかりやすく解説したものだ。仕事の内容、実際の仕事をやる人の映像、就職までの道筋、類似的職業、先輩の声——など仕事の全貌がわかる。情報の量質ともに他の追随を許さない。

先生が各班をまわって、挙げられた五つの職業をホワイトボードに書き出す。ファイナンシャル・プランナー、シュール・フィッター、クリーニング師、宗教家、競艇選手——。

「それじゃあ、ジョブタウンを開いてこの職業を探してみよう」

メインメニューから「ジョブタウン」



「ジョブタウン」から仕事発見を始める